

平成 27 年 1 月 19 日

南の風 108

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

オールジャパン女子準決勝、JX 対富士通の後半です。

3P の出だし吉田選手を起点に、渡嘉敷、間宮選手にボールを集めて加点リズムを掴みます。3点差になったところで、富士通がタイムアウトを取ります。しかし、JX は宮澤選手のジャンプシュートやスチールの活躍で逆転に成功します。富士通はシュートを決めきれず苦しみますが、篠崎、町田、山本選手のジャンプシュートやカットインで流れを戻し、55対58の富士通リードで3Pを終わりました。

4Pに入り、JXは渡嘉敷、間宮選手のインサイドで攻めます。一方富士通は、山本選手の強気のドライブインで得点しチャンスを広げます。その後一進一退の攻防が続きます。そして、残り37秒、ゴール下の合わせのプレーから渡嘉敷選手がシュートを決め、70対69とJXが逆転に成功します。その後富士通に痛恨のターンオーバーがあり、ファウルゲームとなります。吉田選手のフリースローが2本決まります。富士通山本選手の3ポイントシュートが外れ、タイムアップとなります。72対69でJX-ENEOS サンフラワーズが、8年連続決勝進出を決めました。富士通レッドウェーブは惜しいゲームを落としました。しかし、今年の富士通はオフェンスの流れがたいへんよい気がします。繰り返しますが、中と外のバランスが取れています。篠原、長岡選手の中、篠崎、町田選手の外、そして山本選手の外の3ポイントとドライブインなど多彩です。中を突いて外へのパス回しも速く、相手を翻弄することもできます。ですから3ポイントもしっかり打てます。難を言えば、ペイントでの篠原、長岡選手の力強さ増してくると、他のチームにはたいへんな脅威になります。そして、忘れてはいけないのは篠崎滯選手の存在です。篠崎選手は若葉台ミニバス（横浜中部連盟）出身です。旭中で全中に出場（ベスト8）、金沢総合に進み、松蔭大学でインカレ優勝を果たしました。今年度ルーキーながら、スタメンとして大活躍しています。今後の活躍が大いに楽しみです。

富士通の後半のリーグ戦から目が離せなくなりました。

さてここで、オールジャパンを観戦して気づいたことを書きます。

始めにシュートです。女子決勝に進出したデンソーのセンター高田真希選手について書きます。彼女を見ていて、いつも感じるのは「冷静だな」ということです。ポストでボールをもらった時、自分で攻める場合、決して慌てないのです。ディフェンスの状態を感じるのに長けています。ディフェンスをステップでかわしたり、押し込んだりした後の「シュートのリリースポイントが一定なのです。」いつも自分のリリースポイントで打っています。ですからシュート確率が高いのです。（もちろん外すこともあります）これは、簡単なようで難しいことです。どうしてもディフェンスがタイトに来たり、ダブルチームに来ると慌ててしまい、パスミスをしたり、シュートタイミングが早くなったりします。高田選手のプレーは、ミニバスや中高生にはお手本になります。南の風に何回か書きましたが、ミニバスの頃から、ディフェンスとの接触を嫌がらないようにしておくことと、常にシュートをしっかり打ち切ることは、必ず身に付けさせたい基本スキルです。日々の練習から、我々指導者が繰り返して指導しなければいけないことの一つです。

以下次号に続きます。